

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院泌尿器科に、前立腺癌で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学泌尿器科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用させて頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

新規ホルモン剤による治療を行った転移性ホルモン感受性前立腺癌の予後予測因子の解明
-多施設共同後方視的観察研究-

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学泌尿器科学講座 助教 村岡 聡

3. 研究の目的

近年、転移性ホルモン感受性前立腺癌に対する薬物治療として、新規ホルモン剤の適応範囲が拡大しています。2018年1月、転移性ホルモン感受性前立腺癌において、アピラテロンを始めとして、エンザルタミド、アパルタミドといった新規ホルモン剤が適応となり、本学でも適応患者さんへの投与を行っています。しかしながら、薬剤の治療効果は、患者さんの状態およびがんの病勢の影響を受けるため、全ての患者さんで十分な治療効果を得られる訳ではありません。このような背景から、「新規ホルモン剤に適した患者さんはどのような方か？また従来の治療と比較し、どの程度の治療効果が期待できるのか？」を治療開始前に明らかにすることは、治療方針の決定や患者さんへのインフォームド・コンセントを行う上で、非常に重要な情報になります。本研究の目的は、過去に新規ホルモン剤を投与した転移性ホルモン感受性前立腺癌患者さんの情報を基に、上述した治療効果・予後予測因子を明らかにすることを目的としております。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

2018年1月1日から2022年7月31日までの間に転移性ホルモン感受性前立腺癌に対して新規ホルモン剤（アピラテロン、エンザルタミド、アパルタミド）、あるいは従来の治療であるビカルタミド投与を受けた患者さん

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、年齢、性別、BMI、既往歴、日常生活自立度、血液検査結果、画像検査結果、悪性疾患に関連する情報（臨床学的病期、病理組織診断結果）、治療内容、治療成績です。

(3) 方法

対象となる患者さんの診療記録や検査データを過去にさかのぼって集計し、薬剤の治療成績（治療効果や予後）を調べます。治療開始前の情報からこれらの治療成績を予測できるか統計学的な解析を行います。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学泌尿器科学講座 担当医師 村岡 聡

TEL : 073-441-0637 FAX : 073-444-8085

E-mail : muraoka@wakayama-med. ac. jp